

軽井沢のクマ対策 その秘けつはゴミ対策とベアドッグ

日本有数の観光地・別荘地のクマ騒動

長野県軽井沢町は、森の中に別荘や宿泊施設が点在し、おしゃれな店が集まる街路にたくさんの観光客が行き来しています。しかし、夏ともなれば、別荘地のゴミステーションは、収まりきらないゴミであふれかえります。それを求めて夜な夜なツキノワグマが徘徊し、1990年代後半から大きな問題になっていました。森がモザイク状に入り込んだ環境はクマの絶好の隠れ場になり、ゴミを食べてブクブクに太ったクマがうろついていたのです。首相経験者の某有名政治家の別荘の床下で、クマが昼寝していることまであったそうです。これはたいへん危険な状態でした。

諸悪の根源、ゴミを何とかせよ！

軽井沢町役場と地元NPOピッキオが対策に立ちあがりしました。北米のクマがすむ地域では常識のクマに壊されない頑丈なゴミステーションを開発。2002年から配置がはじまりました。今やその数は50ヶ所をこえ、クマがゴミを食べて問題を起こすことはめったになくなりました。

ベアドッグの導入

また、町からクマ対策を委託されているピッキオは、クマを見つけ出して追い払うための強力な助っ人を導入しました。それがベアドッグ(クマ対策犬)です。アメリカの民間団体ウィンドリバークマ研究所は、クマ対策用に特別に訓練した犬を、クマ問題を抱える地域の専門家に供給しています。2004年、ピッキオはそこから2頭の犬を譲り受けて、現場に投入したのです。

犬たちは、敏感な嗅覚でクマを見つけ出し、山へとクマを追い立てて行きました。ゴミ対策と相まって軽

井沢のクマ問題は激減しました。また、フレンドリーな犬たちは地域住民とのコミュニケーションにも役立っています。



軽井沢町が設置したクマ対策用のゴミステーション

知床でも共通の課題

知床でもゴミを荒らすクマが大きな問題です。一度餌付くと行動が悪化して手が付けられなくなります。クマが高密度に生息する森と住宅地が接している知床では、被害防止にはゴミ対策が必須ですが、まだ進んでいないのが現状です。

知床財団はクマ対策に、長年アイヌ犬を使ってきています。住宅と森が混在する地域で、引き綱を付けたまま対策員と犬が一体となってクマを追っていく軽井沢と、より広いエリアで犬を放ってクマを追うことが多い知床の使い方は異なります。

しかし、子犬の適性に合わせた選抜、継続的な訓練、特定の対策員との信頼関係を築いての運用など、軽井沢の例はとても参考になります。

(山中正実)



軽井沢の対策犬は、北欧でクマ猟犬として使われてきたカレリアンベアドッグという種類の犬。左はピッキオの田中純平さん。



知床で使われている対策犬は、北海道在来のアイヌ犬。

10月29日(土)田中さんがベアドッグを連れて知床に来ます。詳しくは、表面を見て下さい。

発行 知床博物館協力会 2016.10.24

099-4113 北海道斜里郡斜里町本町 49
斜里町立知床博物館内

TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257
<http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/>